

皮膚科・アレルギー科

1. 【一般目標(GIO)】

患者にとって満足できる皮膚科診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、皮膚科診療に必要な知識、技術を修得する

2. 【行動目標(SBOs)】

1 患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2 皮膚科診療、皮膚科での手術手技に関する基本的知識を身につける
3 担当患者に必要な情報提供や指導ができる
4 皮膚疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する
5 皮膚科患者の適切な診療プロセスを実践する。
6 皮膚科診療に関する必要な検査、手技を経験し、習熟する
7 手術手技を経験し、習熟する
8 メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSBOs】
1 皮膚科・アレルギー科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 抄読会に参加し、皮膚科領域の最新情報について講義を受ける	2
3 指導医のもとで手術の補助を行い、縫合など簡単な手技を実践する	2, 7
4 指導医とともに新患外来・他科からの皮膚疾患コンサルテーションに対応する	4, 5, 6
5 皮膚患診療に関する手技・検査（皮膚生検、パッチテスト、プリックテスト、真菌検査、光線テスト）を行う	6
6 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	1, 5, 8
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 4

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSBOs】
担当した入院患者のサマリーと患者数	指導医 メディカルスタッフ	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	4, 6
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート 看護師からの評価表	1, 3, 8
関連手技	自己・指導医	毎週	指導医によるチェック 口頭でのフィードバック	2, 6, 7
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・メディカルスタッフ	毎週	口頭でのフィードバック	4, 5, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	4, 8

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	外来・病棟	手術・外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟
午後	カンファレンス (病理、臨床写真) 病棟回診	外来・病棟・カンファ ランス (手術症例)	病棟	病棟・手術 病理カンファランス (若手向け)	病棟

6. 研修医の事前準備

皮膚科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 室田 浩之

指 導 医： 竹中基、鉦塚大、鉦塚さやか、小池雄太、岩永聡、芦田美和、江原大輔、各病棟チーム長の計10名が指導にあたる

メディカルスタッフ：病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

皮膚科・アレルギー科病棟業務マニュアル参照

眼科

1. 【一般目標(GIO)】

患者にとって満足できる眼科診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、眼科診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的な一般眼科診療を実践できる

2. 【行動目標(SBOs)】

1	患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2	眼科診療に関する基本的知識を身につける
3	眼科疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する
4	眼科患者を指導医とともに担当し、適切な診療プロセスを修得実践する
5	眼科診療に関する必要な検査、手技を経験し、習熟する
6	メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSBOs】
1 眼科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6
2 医局会に参加し、眼科臨床一般や最新情報についての知識を習得する	2
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	1, 3, 4, 5
4 指導医とともに新患外来・他科からの眼科疾患コンサルテーションに対応する	3, 4, 5
5 眼科診療に関する手技・検査を行う	5
6 カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	3, 6
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	3

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSBOs】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院時 研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	1, 3, 4, 5, 6
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 6
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック 口頭でのフィードバック	5
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・メディカルスタッフ	毎週	口頭でのフィードバック	2, 4, 6
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	3, 4

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	外来・病棟 教授回診	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟
午後	外来・病棟 術前カンファ、 眼底造影読影会、 抄読会	手術	外来・病棟 医局会	外来・病棟 透析カンファ 手術検討会 術前カンファ	手術

6. 研修医の事前準備

眼科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 大石明生
指 導 医： 上松聖典、築城英子、草野真央、原田史織、井上大輔、宮城清弦、秋山郁人
ディカルスタッフ 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

長崎大学眼科医局の緊急連絡網参照

放射線科

1. 【一般目標 (GIO)】

放射線学的検査法や放射線治療の適切な選択や評価ができるようになるために、CT・MRI・核医学検査などの撮影法と読影に必要な基本的知識を身につけ、IVRの基本的な考え方や方法を修得する。検査を安全に行うための留意事項も習得する。

2. 【行動目標 (SB0s)】

1	画像診断全般に関する基礎的知識を修得する
2	放射線科入院患者を担当し適切な診療プロセスを修得実践する
3	放射線治療の適応や合併症、がんの標準的治療法を修得する
4	造影CTの適応の有無の判断力、造影剤投与ルート確保と造影剤注入などを習得する
5	被曝や造影剤による副作用のリスクといった各検査の安全性・危険性について理解する
6	超音波・血管造影・消化管造影などの基本的な手技を経験する
7	メディカルスタッフと協力してチーム医療を実現できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】	
1	診断レポートを指導医とともに作成し、レポートのフィードバックを行う	1
2	放射線科入院患者の担当医として主治医である指導医とともに診療にあたる	2, 3
3	放射線科外来にて放射線治療中・後症例の診察をする	3
4	血管造影やIVRがある場合は助手として参加し基本的な手技を修得する	4, 5
5	ティーチングファイルなどの症例を多く閲覧する	1
6	カンファレンス・回診に参加し積極的に発表・討論を行う	1, 2, 3, 7
7	研究会・学会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	1, 2, 3

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	2, 3
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬・研修終了時	フィードバックシート	5, 7
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック	4, 5, 6
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・メディカルスタッフ	毎週	口頭でのフィードバック	1, 2, 3, 7
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	1, 2, 3

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	読影	病棟業務	読影	読影	読影
午後	読影 デイリーカンファレンス 病棟カンファレンス 月1回がんセンターボード	読影 デイリーカンファレンス	読影 デイリーカンファレンス	回診 勉強会 デイリーカンファレンス 医局会	放射線治療 デイリーカンファレンス

6. 研修医の事前準備

放射線科教科書の予習

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 上谷 雅孝

指導医： 森川実、末吉英純、石丸英樹、山崎拓也、江川亜希子、本多功一、筒井伸、井手口怜子、石山彩乃、瀬川景子、大木望、小池玄文の計12名のスタッフが指導にあたる

メディカルスタッフ：病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

放射線科業務マニュアル参照

国際ヒバクシャ医療センター

1. 【一般目標(GIO)】

患者にとって満足できる診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的な一般内科診療を実践できる

2. 【行動目標(SBOs)】

1	医師として必要な人間性を身につけ、患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2	一般内科診療、総合診療に関する基本的知識を身につける
3	緊急被ばく医療の知識を身につけ、実践できる能力を身につける
4	原爆被爆者の健康管理を実践できる
5	メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

		【対応するSBOs】
1	国際ヒバクシャ医療センター入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5
2	問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について習得する	1, 2, 3
3	指導医とともに新患・旧患外来、他科からのコンサルテーションに対応する	1, 2, 3, 4
4	回診に参加し、発表、討論を行う	2, 5
5	学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 3

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSBOs】
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医 メディカルスタッフ	患者退院時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	2, 3, 4
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート	1, 5
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック	2, 3
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・メディカルスタッフ	毎週	口頭でのフィードバック	2, 5
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	2, 3

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	抄読会 外来・病棟
午後	病棟	カンファレンス、 回診	病棟	カンファレンス、 回診	病棟

6. 研修医の事前準備

一般的な内科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 宇佐俊郎

指 導 医： 宇佐俊郎が指導にあたる

ディカルスタッフ 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

国際1階病棟業務マニュアル参照

検査部

1. 【一般目標(GIO)】

プライマリケア、総合医、救急など初期診療時の診断に必要な実践的な知識と技術を修得するために、検査医・検査技師へのコンサルテーションが必要な項目を適切に判断して診療へ応用する力を養う。また、臨床検査データを様々な角度から検証することで、広い視野を伴った診療を実践する力とともに医療人としての探求心を養う。

2. 【行動目標(SB0s)】

1	チーム医療内での医師の位置づけを認識し、実践できる
2	正しい検査結果の解釈力を身につける
3	初期検査結果の解釈を元に、病態診断確定に必要な検査立案を実践できる
4	診断プロセスにおける臨床検査の応用と限界を理解する
5	基本的臨床検査手技を実践・判読する能力を取得する
6	生理検査を適切に実践し、解釈する能力を取得する
7	感染症診断率向上のために、必要な検査法の選択、適切な検体採取・輸送が実践できる
8	検査データの解析から情報発信までのプロセスを実践することで、客観的な事実や症例特有の病態への理解を深める

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 検査各部門カンファランスに参加し、医師の視点と臨床検査技師の視点の双方から討論を行う	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8
2 年齢・性別・検査情報のみを利用した病態読解（R-CPC）をおこなう	2, 3, 4, 5, 6
3 グラム染色・尿沈査・血液塗抹の各標本を作製し、医師・専門技師の指導のもと判読するとともに、オリジナルノートを作成する	2, 5, 7
4 特殊検査（フローサイト、免疫電気泳動、遺伝子検査など）に触れ、指導医と共に解釈する	2, 4, 5
5 心電図、超音波（心臓・腹部）を行う	6
6 分子診断（ヒト、微生物）のカンファランスに参加し、討論を行う	1, 2, 8
7 検査データを解析、まとめを行い、研究発表・症例報告・論文作成を行う	2, 4, 8

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
各種検査結果の判読	指導医・検査技師	随時	口頭でのフィードバック	2, 5, 6
診療態度	自己・指導医・検査技師	研修中旬・修了時	フィードバックシート	1
関連手技	自己・指導医・検査技師	随時	検査技師による客観的達成度評価と指導医による確認	5, 6, 7
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・検査技師	随時	口頭でのフィードバック	2, 3, 5, 6, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医・検査技師	随時	学会発表・論文発表	5, 6, 8

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	①微生物検査 ②miniR-CPCデータ解析	生化学検査	①生理機能検査 ②miniR-CPCデータ解析	①血液検査 ②miniR-CPCデータ解析	①血清検査 ②miniR-CPCデータ解析
午後	①微生物検査 ②miniR-CPC検証会	①生化学検査 ②研究カンファ	①生理機能検査 ②miniR-CPC検証会	①血液検査 ②miniR-CPC検証会	①一般検査 ②miniR-CPC検証会

6. 研修医の事前準備

これまで自らの視点から興味深い症例があれば資料・データなどをまとめておくこと
学生時代で使用した教科書が使える状態としておくこと

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 柳原克紀

指 導 医： 長谷川寛雄、小佐井康介、賀来敬仁、加勢田富士子、太田賢治

メディカルスタッフ： 技師長、副技師長、主任技師他、全臨床検査技師

8. 【緊急連絡先】

検査部業務マニュアル参照

病理診断科・病理部

1. 【一般目標(GI0)】

臨床病理の業務を理解するために、病理診断に必要な知識、技術を修得するとともに、病理診断、病理解剖を通して医療に貢献する。
--

2. 【行動目標(SB0s)】

1	病理診断に重要な臨床情報を適切に収集する
2	生検組織の診断に必要な知識を修得する
3	手術検体の切り出しに必要な技術を修得する
4	手術検体の診断に必要な知識を修得する
5	病理解剖に必要な技術を修得する
6	病理解剖診断に必要な知識を修得する
7	臨床医と円滑にコミュニケーションをとり、チーム医療を実践する

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 生検組織を指導医とともにディスカッション顕微鏡で供覧し診断を行う	1
2 手術検体を指導医とともに切り出しを行う	2
3 手術組織を指導医とともにディスカッション顕微鏡で供覧し診断を行う	3
4 病理解剖を指導医とともに行う	4, 5
5 カンファレンスに参加し、討議を行う	1, 3, 6

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医 メディカルスタッフ	患者退院時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	1, 3, 5
診療態度	自己・指導医	研修終了時	フィードバックシート	6
関連手技	自己・指導医	研修終了時	フィードバックシート	2, 4
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医	随時	口頭でのフィードバック	1, 3, 5, 6
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	口頭でのフィードバック	6

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	切り出し	切り出し	切り出し	切り出し	切り出し
午後	細胞診断 細胞診サインアウト	細胞診断 細胞診サインアウト	細胞診断 細胞診サインアウト	細胞診断 細胞診サインアウト	細胞診断 細胞診サインアウト

6. 研修医の事前準備

各臓器の基本的な組織像および、代表的な疾患の病理像を復習すること。

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 岡野慎士

指 導 医： 岡野慎士，黒濱大和，石嶋聡介の計3名のスタッフが指導にあたる

メディカルスタッフ：平山三国が指導に当たる

8. 【緊急連絡先】

ローテート時に指導医の連絡先を共有

感染制御教育センター初期研修プログラム

1. 【一般目標(GIO)】

いかなるレベルの医療施設でも適切な感染症診療が可能で、医療施設内における感染制御にも配慮できる能力を修得するために、①院内横断的に感染症患者の診断と治療の基本を習得し、患者の常在菌や環境の微生物に対する影響を最小限に抑えた効率のよい感染症診療の手法を習得する、②1類感染症や特殊な耐性菌感染症への治療、対応について習得する、③検査技師、薬剤師、看護師との多職種連携を経て、医療施設内における感染症の制御方法について学ぶ。

2. 【行動目標(SBOs)】

1	感染症診療に関する基本的知識を身につける
2	抗菌薬の適正使用を習熟し、実践できる
3	微生物検査結果を適切に解釈することができる
4	標準予防策・感染経路別予防策の意味を理解し、実践できる
5	1類感染症など特殊な感染症の知識を身につけ、適切な診療プロセスを修得する
6	検査技師、薬剤師、看護師、事務員など他職種の業務内容を理解し、適切な連携を修得する
7	院内サーベイランスを通じて、院内アウトブレイクを未然に防ぐことができる
8	実際にアウトブレイクが起こった際に、拡大させないよう適切に対応することができる

3. 【方略】

	【対応するSBOs】
1 感染症コンサルトを通じて、指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 毎日の感染制御カンファレンスに参加し、耐性菌検出時の対応を修得する	2
3 毎日の感染症コンサルトカンファレンスに参加し、感染症診療を学ぶ	1, 2, 3, 5
4 毎週のICT (Infection control team) ラウンドに参加し、感染制御の実践を学ぶ	1, 2, 4, 6
5 毎月のICT会議に参加し、事前の資料作成を通じてサーベイランスの方法を学ぶ	7, 8
6 1類感染症対応時の特殊な个人防护具の装着法の指導を受ける	5
7 学会や研究会に積極的に参加し、研究発表を行う。	1, 3, 5

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSBOs】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	研修終了時	日々のカルテ記載のチェック	1, 2, 3
診療態度	自己・指導医・他職種	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート	6
関連手技	自己・指導医	毎日	口頭でのフィードバック	4, 8
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・他職種	随時	口頭でのフィードバック	1, 2, 3, 6
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	1, 3, 5

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	感染制御カンファレンス 血液培養陽性カルテチェック 耐性菌ラウンド 感染症コンサルテーション業務	感染制御カンファレンス 血液培養陽性カルテチェック 耐性菌ラウンド 感染症コンサルテーション業務	感染制御カンファレンス 血液培養陽性カルテチェック 耐性菌ラウンド 感染症コンサルテーション業務	感染制御カンファレンス 血液培養陽性カルテチェック 耐性菌ラウンド 感染症コンサルテーション業務	感染制御カンファレンス 血液培養陽性カルテチェック 耐性菌ラウンド 感染症コンサルテーション業務
午後	抗菌薬適正使用カンファレンス 感染症コンサルテーション業務	抗菌薬適正使用カンファレンス 感染症コンサルテーション業務	抗菌薬適正使用カンファレンス 感染症コンサルテーション業務	抗菌薬適正使用カンファレンス 感染制御ラウンド 血液内科カンファレンス 感染症コンサルテーション業務	抗菌薬適正使用カンファレンス 感染症コンサルテーション業務

6. 研修医の事前準備

感染症教科書をおさらいすること。

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 泉川 公一

指導 医： 泉川 公一、田中 健之、田代 将人、藤田 あゆみ、柿内 聡志の5名のスタッフで指導

メディカルスタッフ：看護師、薬剤師、臨床検査技師

8. 【緊急連絡先】

緊急連絡先一覧を参照

リハビリテーション科

1. 【一般目標(GIO)】

疾病 (disease) だけでなく障害 (impairment/disability/handicap) を診ることによって、「病気」ではなく「人」を診るというリハビリテーション医学の概念を理解し、幅広い疾患におけるリハビリテーション的診断法とチーム医療を習得する。

2. 【行動目標(SBOs)】

- 1 脳卒中・頭部外傷・神経筋疾患・呼吸器疾患・循環器疾患・骨関節疾患・悪性腫瘍・小児疾患などの診断・検査・治療を理解し、プライマリーケアが行なえる。
- 2 リハビリテーション的診断法を習得しリハビリテーション処方が行える。
- 3 嚥下障害や高次脳機能障害の評価法を理解する。
- 4 栄養管理とリハビリテーションの関係および重要性を理解する。
- 5 回復期や生活期におけるケアやリハビリテーションを理解する。
- 6 家庭復帰・復職・復学および自動車運転再開に向けての具体的方法や社会資源について理解する。
- 7 チーム医療の一員として他の医療者と協調して医療行為ができる。

3. 【方略】

	【対応するSBOs】
1 指導医よりリハビリテーションに関する講義を受け、リハビリテーションの基本的知識や最新情報を修得する。	1～4
2 入院患者のリハビリテーション診察および処方を指導医とともに行う。	2
3 多職種のコラボレーションに参加する。	1, 7
4 セラピストとともに訓練見学を行う。	1, 6, 7
5 NSTカンファレンス・ラウンドに同行し適切な栄養管理法を理解する。	4, 7
6 回復期リハビリテーション病院や介護施設など協力施設での実習を行う。	5
7 学会や研究会に参加し、症例報告や研究発表を行う。	1～7

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSBOs】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己 指導医 メディカルスタッフ	患者退院時又は 研修終了時	カルテ記載のチェック ポートフォリオ	1～4, 5, 7
診療態度	自己 指導医 メディカルスタッフ	連日	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1～4, 5, 7
関連手技	自己 指導医	研修中、研修終了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 2, 5
カンファレンスでの症例提示	自己 指導医 メディカルスタッフ	カンファレンス終了時	カンファ後フィードバック フィードバックシート	3, 5
学会発表・論文発表	自己 指導医 メディカルスタッフ	随時	学会発表・論文発表	1, 7

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	8:30 リハ部ミーティング 講義・診察 11:00 11東カンファ (耳鼻科)	訓練見学(運動器・脳血管・呼吸器・がん)	9:10 腎臓カンファ 訓練見学(ST)	8:50 10西カンファ 講義・診察	訓練見学(運動器・脳血管・呼吸器・がん)
午後	13:30 10東カンファ (心臓血管外科) 13:30 13東カンファ (泌尿器・腎臓内科) 15:30 嚥下カンファ 16:00 VADカンファ 16:45 9東カンファ (脳卒中・脳神経外科合同)	講義・診察 16:00 5東カンファ (整形外科)	講義・診察 13:30 緩和ケアカンファ 14:00 NST回診 15:00 国2カンファ (救命・外傷) 16:00 造血移植チームカンファ 16:30 9西カンファ (脳神経内科)	12:20 症例検討会 13:30 10東カンファ (放射線科) 14:00 NST回診 14:00 13西カンファ (血液内科) 15:45 11西カンファ (口腔外科)	講義・診察 14:30 8西カンファ (外科・消化器内科) 15:00 7西カンファ(奇数週) 7東カンファ(偶数週) 15:30 8東カンファ(外科) 15:40 11西カンファ(外傷)

6. 研修医の事前準備

リハビリテーション医学・医療コアテキスト(医学書院)などリハビリテーション成書を読んでおくことが望ましい。

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 高島英昭

指導医： 高島英昭、佐藤慧

メディカルスタッフ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

8. 【緊急連絡先】

医局 095-819-7545, 医局秘書(西坂 y-nishizaka@nagasaki-u.ac.jp, PHS 98131、高比良 mai-t@nagasaki-u.ac.jp、PHS 98138)